

二〇二五年度 夏期「東大現代文」 【テスト 第1回】 解答モデルと採点基準

担当 中野 芳樹

〈一般的採点基準〉

- a 誤字・脱字・略字・表現未熟・文末表現ミス・文末句点なし等……マイナス1点。設問毎に減点
- b 解答欄の不正使用(挟み込み、一行に二行書き、はみ出し、小さい文字での書き過ぎ、その他) ……当該設問は失格
- * 解答欄一行は二五〜三〇文字程度
- c 比喩表現のママなど……減点もしくは加点無し
- d 必須ポイントについて。必須ポイントは、これがクリアされていなければその時点で失格。ただし、必須項目が「加点はされないものの、構文や内容上はほぼ適切であるもの、減点により得点のないもの」等であれば、「必須」の条件自体はクリアしたものとして、他の基準部分は採点する。

〈設問別採点基準〉

一 (6点)

書物は、書物という世界の完全性という理念に託して、現実世界を一卷の書物に帰着させる世界像を表現しているということ。

- * ①・②は、必須ポイント
- ① 主題＝書物 (と世界) について 1点
- ② 構文＝書物が世界 (像) を・表現する 2点
- * 「世界を書物とみる」「書物は世界とみなされる」等は1点
- ③ 「夢見られた」＝書物という理念に託した 2点
- * 「夢想」は、1点のみ
- ④ 「絶対的な『作品』」＝究極の書物 (書物という世界の完全性) 1点

二 (6点)

無限の可能性を示す世界を前に、書物は、思想的理念と物理的感觸を兼備する世界への人間の参入を常に媒介したということ。

- * ①・②は、必須ポイント
- ① 主題＝書物 (と世界) について 配点は無し
- ② 構文＝書物は人間が世界に「踏み出す敷居」にあった 1点
- ③ 「敷居」＝書物が世界への参入を常に媒介する、の意 2点
- * 「いつも」のニュアンスを欠けば、1点減点
- ④ 「そこで」＝世界の無限の可能性 (の想像) において 1点
- ⑤ 「世界」＝思想的理念と物理的感觸を・共に具えた 2点

三 (6点)

数千年来、書物に託されてきた人類の知性史上のイデアは、驚異的なデジタルなデータ記号へと継承され始めたということ。

- * ①・③は、必須ポイント
- ① 構文＝ユリシーズの末裔たちが、躍動しはじめた 1点
- ② 「ユリシーズ」＝数千年におよぶ人類の知性史において・書物に託されてきたイデア 2点
- ③ 「末裔たち」＝ ②が デジタルなデータ記号 (電子テクノロジー) ・へと受け継がれ (始め) た、の意 2点
- ④ 「躍動しはじめた」＝目覚ましい (驚くべき) ものになりはじめた、の意 1点

四 (16点)

世界の理念・媒体となる書物の物質的有限性は、託された理念の有限性を了解させ、書物の力、イデアの豊かな源泉となった。現代の電子テクノロジーが永遠化したと見えるテキストは死や消滅への想像力を失い、知性の求める尊厳と謙虚さから乖離するということ。(二二〇字)

- * ①・②と ⑤もしくは⑥のいずれかとは、必須ポイント
- ① 主題＝現代では・想像力が保持されないこと 2点
- ② デジタルなデータ記号 (テキスト) が①である 1点
- ③ ②は永遠化したように見え・死や消滅への想像力を失っている 1点・2点
- ④ 「こんな繊細な物質的イマジネーション」＝書物は物質的に有限である・(その有限性が) 書物の力であり・書物の体现するイデアの豊かな源泉だった 2点・1点・1点
- ⑤ ①〜③により知性の求める尊厳と謙虚さから遠ざかる 2点
- ⑥ 書物は世界のイデア (理念) であつた 2点
- ⑦ 書物は世界への媒介であつた 2点

五 (各2点)

- a 喪失 b 混沌 c 懂